

# うるわし通信



一般社団法人  
うるわしの桜井をつくる会  
〒633-0091 奈良県桜井市  
桜井1259エルトさくら内  
TEL&FAX:0744-43-7773  
URL: <http://lets.some.jp>  
E-mail: [lets@some.jp](mailto:lets@some.jp)

令和3年11月

## チャレンジ精神と継続で、頑張っておられます

林千鶴子さんは、うるわしの桜井をつくる会の創設期からの主要メンバーで、現在は理事を務めておられます。総会や新春昼食会などには必ず出席され、桜井商工会でも永らく婦人部長として貢献されておりました。今回紹介する【団子店「卑弥呼」】の新聞記事は、今年の9月20日に毎日新聞奈良版に、そして翌日に全国版に掲載されました。その後1か月たち10月16日の産経新聞全国版にさらに詳細な記事が出ました。高齢者と感じさせないくらい頑張っていることで皆さまが応援したくなると思ったことの表れだと思います。

KFCのカーネルサンダースは65歳で起業しましたが、なんと林千鶴子さんは82歳で起業されております。幾多の苦労の内容は記事に譲りますが、働く場所を自分たちで作成し、それを続けていかれるというチャレンジ精神はやはり素晴らしいことです。会員の皆さまも桜井駅を利用されたら団子の甘い香りに誘われて、お店に立ち寄りたらいかがでしょうか。



林千鶴子さん

(船谷 晴夫)

### ■ 93歳が店長、最年少70歳の団子店「卑弥呼」

店長は93歳、店のスタッフのほとんどが70～80代という元気なお年寄りが働く団子店がある。奈良県桜井市の「まほろばの里 卑弥呼（ひみこ）」。同市には邪馬台国の女王・卑弥呼の墓との説がある箸墓（はしはか）古墳があり、市商工会女性部の出資を受け、店長の林千鶴子さん（93）が町を盛り上げようと始めた。「働くことが元気のもと」と断言する林さん。店を訪ね、そのパワフルさにふれた。

### ■ 元気印のお年寄り

JR・近鉄桜井駅前で、真っ赤なのれんの「卑弥呼」の店はよく目立つ。店の名物は、しょうゆベースの素朴なタレが「甘すぎず辛すぎない」と評判のみたらし団子。もちもちした食感とさっぱりした味が好評だ。定番の五平餅も人気が高い。このほか、地元特産のそうめんなども並べられている。

店は午前9時半から、商品がなくなる夕方ごろまで営業。林さんは定休日の火曜以外は毎日出勤している。店で団子を焼く姿はてきぱきして力強いが、お客さんやスタッフと会話するときは、にこやかでやわらかい雰囲気だ。「働く場所があることがありがたい」。店で訪れたお客さんと交流することが生活に張りを与えているという。

店では商工会女性部のメンバー13人も働いている。最年少は70歳、最高齢は93歳の林さん、と元気印のお年寄りたちで、店に来た観光客に桜井市内の名所を紹介することもある。

それぞれ自営業の経験があるため、店の切り盛りは慣れたものだ。会計担当の浦田文乃さん（85）は、「林さんは私たちがまねできないくらい頑張り屋。店にとってなくてはならない存在で、尊敬している」とほほ笑んだ。

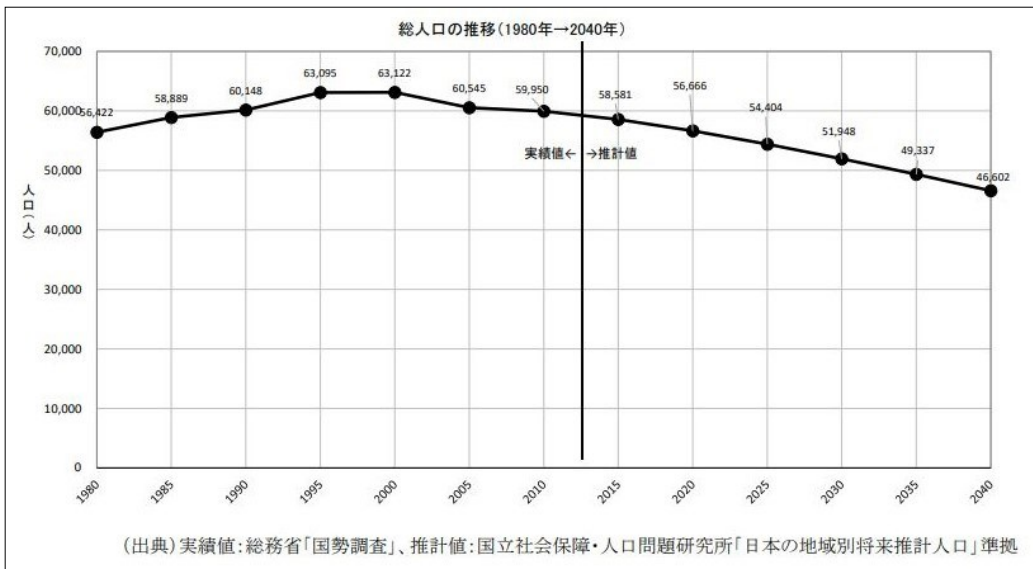
(10月16日産経新聞より一部抜粋)

## 【シリーズ 人口減少・少子高齢化】何とかしなきゃー (1)

本誌は、この間コロナ禍の中での様々な取組みを紹介してきましたが、足元で進行している市内の過疎化現象についてシリーズで現状と課題を紹介し、共に考えていきたいと思えます。

市行政は、新庁舎を完成させ、県の包括協定を踏まえたまちづくり事業を推進する方向を示してくれています。第6次総合計画に基づいて今後の諸施策についても市民協働での取組みを呼びかけています。しかし、他方で市の計画やマスタープランにもっと反映されていくべき課題として、人口減少・高齢化に伴う地域課題へのアプローチを、同じ課題を持つ他の市町村の先進的な事例や支援策を積極的に取り入れて欲しいことを願いながら、現状を見ることとします。

### 《急速に進む人口減少と少子高齢化》



2010(平成22)年の国勢調査で1億2,806万人であった我が国の人口は、長期的な減少傾向になっている。そして、都市部への人口集中は、地方部の一層の人口減少と少子高齢化を促進させている。

桜井市に於いても2000(平成12)年の63,122人

をピークとして、2010年に約6万人を切り、2020(令和2)年3月末に56,643人に、今年9月末現在で55,868人となり、ピーク時から21年間に11.5%の減少となっている。

「国立社会保障・人権問題研究所」の推計では、2030年に51,947人、2040年に46,604人になるとしている。すなわち、今後10年間でマイナス7%、20年後にマイナス16.6%の人口減が進むことになる。

だが、これは市内を平準化した推計で、実際は市中央部と、中山間地域での人口減少には大きな格差が既に生じている。特に、桜井東中校区の各大字、桜井中校区の城島小校区・桜井南小校区の一部の大字を中心とする桜井北東部から南東部の中山間地域での人口減少が著しいと理解されたい。

(「桜井市人口ビジョン」平成27年10月参照)



桜井市町字別人口予想

具体的に見ると、2010（平成22）年3月末の人口は、61,187人であったが、上記のように今年9月末までに、桜井市全体ではマイナス5,329人で8.7%の減となっているが、上之郷地域ではマイナス30.9%、初瀬地域ではマイナス26.7%、朝倉台地区でマイナス25.0%、多武峰地域でマイナス29.7%となっており、市平均の3倍以上の人口減少と高齢化が進行しているのが現実となっている。（市ホームページの人口統計より算出 詳しい資料が掲載されている）

また、地域の高齢化率（地区人口に占める65歳以上の人口比率）は、上記の各地域の状況は、上之郷地域では50.6%、初瀬地域では48.2%、朝倉台地区で45.3%、多武峰地域で51.5%という高率となっている。桜井市全域での高齢化率は、31.9%である。

（数値は、市ホームページの人口統計数値より作成。本年9月現在のデーター）

人口比率の変化

		2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
パターン1	総人口	60,145	58,582	56,666	54,407	51,947	49,339	46,604	43,770	40,908	38,038	35,160
	0～14歳人口比率	13.1%	12.0%	11.1%	10.4%	9.8%	9.5%	9.4%	9.1%	8.8%	8.4%	8.2%
	15～64歳人口比率	62.5%	59.7%	58.2%	57.6%	56.9%	55.6%	53.4%	52.1%	51.4%	51.1%	50.2%
	65歳以上人口比率	24.5%	28.3%	30.7%	32.0%	33.3%	34.9%	37.2%	38.7%	39.8%	40.5%	41.7%
	75歳以上人口比率)	12.0%	13.8%	15.9%	18.9%	20.5%	21.3%	22.0%	23.2%	25.3%	26.5%	27.1%

上記の地域では、市の推計で予想されている65歳以上の高齢者人口が、40年先の2060年の41.7%よりも進んでいる。そのことは、上記の地域で現在起こっていることが、将来の桜井の姿を、鏡となって表わしているともいえる。

### 《地域生活をむしばむ現状》

このような状態で、買物難民・医療難民と言われる状況があり、地域の様々な行事運営も課題を背負っている。当然のこととして、空き家や農地の耕作放棄地も増え、地域コミュニティーを維持して安全・安心な地域生活を送ることが、脅かされてきている。

公共交通機関も便数削減などとなり、この10月より近鉄長谷寺駅が無人化となった。交通難民対策としてコミュニティーバスやデマンドタクシーが住民の生活維持のために運営されている現状である。

人口減少・少子高齢化は、全国的な課題であるが、今桜井で起こっている地域課題を通じて、まちづくりや、それに取り組む人材の育成・確保に努力がされなくてはならない。

実際に地域で生活されている方々は、今後のこれらの諸課題についてどのようにされようとしているのかを、次回に寄稿を依頼し、掲載したい。また、他市での地元住民による取組みの事例なども紹介していきたい。併せて会員の声を本誌編集部へ寄せて頂きたい。（楠木 克弘）



## 土舞台顕彰大祭及びセミナー案内

### ●土舞台顕彰大祭

日時：11月13日(土)11:00~12:00 場所：土舞台史跡（桜井公園）

『日本書紀』に、612年、百済から帰化した味摩之（みまし）が「呉の国に学び、伎楽の舞ができます」と言うので、桜井に住まわせ、少年を集め伎楽の舞を習わせたとあります。桜井市にある土舞台と呼ばれる場所は、聖徳太子が初めて国立演劇研究所と国立劇場を設けた場所として伝わり、「日本芸能発祥の地」として顕彰されています。



### ●土舞台顕彰会セミナー

日時：11月13日(土)14:00~16:00 場所：飛鳥学院保育所ホール

第1部『奈良の城から見た歴史』

講師：千田 嘉博 氏(城郭考古学者/奈良大学教授)

第2部『土舞台周辺の遺跡を語る』

講師：千田 嘉博 氏(城郭考古学者/奈良大学教授)

講師：橋本 輝彦 氏(桜井市教育委員会文化財課課長)

\* 申込人数が定員に達しましたので、受付は終了となっています。



## 桜井図書館友の会

●11月の読書会は、『自壊するメディア』著：望月衣塑子・五百旗頭幸男です。コロナ無策、五輪断行、民意無視で暴走する政治権力に対し、監視機能を果たせない巨大メディアの腐食を撃ち、再生への途を熱く語る。

日時：11月30日(火)15:30から

場所：桜井市市民活動交流拠点会議室(エルト桜井2階内)

\* 問い合わせ先 浅川 肇 TEL: 090-1961-6345



### 【訂正について】

通信87号（令和3年9月1日発行）の公開講演会の中和濟生会副院長 徳山猛氏の要約記事で、「厚生労働省は公式に、いずれも科学的根拠の無い虚偽のもの」としているを、「厚生労働省は公式に、いずれも科学的根拠の無いもの」としているに、訂正いたします。

### 【編集後記】

(編集子 K)

うるわし通信発行人  
高瀬 安男  
TEL: 090-1678-9157